



小樽商科学
大

学園だより

小樽商科大学広報誌

vol.178

2015 AUTUMN



● CONTENTS ●

第 63 回緑丘祭を振り返って……………	1	佐野力海外留学奨励金授与式について……………	4
若者合宿について……………	2	卒業生にインタビュー……………	5
後期開催予定イベント PICK UP!……………	2	お酒との適切な付き合い方を考えましょう……………	6
第 62 回北海道地区大学体育大会……………	3	教育振興基金について……………	7
エドヒガンザクラの植樹式が行われました……………	4		

■表紙について

今回の表紙は、6月の第63回緑丘祭で行われた『MISS・MISTER小樽商大 CONTEST2015』の出場者の皆さんです。ミスター小樽商大には、経済学科2年の井上悟志さんが、ミス小樽商大には、社会情報学科2年の真木結衣さんが選ばれました。(題字は和田健夫 学長)

第63回緑丘祭を振り返って



緑丘祭実行委員会委員長
谷内広夢さん

6月26日～28日にかけて、第63回緑丘祭が開催されました！
今年も大きな盛り上がりを見せた緑丘祭です。今回はその様子を振り返ってみましょう。
緑丘祭実行委員会委員長、谷内広夢さんに今年の緑丘祭について語ってもらいました。

今年の緑丘祭で、前回と違う新しい取り組みはありましたか？

今年の緑丘祭で最も大切にされたことは『最高の祭りを参加者の皆と共に作り上げる』という思いでした。今年の緑丘祭のテーマは『ROCK YOU』です。ROCKには『岩』『最高な』という意味があります。つまり、岩のように団結して（ROCK）、参加者（YOU）と共に最高の祭りを作り上げる、という意味がテーマにも込められています。それだけ今回は参加者と共に、という点が強調された緑丘祭になりました。

具体的な内容としては、外部との連携が非常に活発に行われた企画が多かったですね。例えば、今年は緑丘祭のテーマソングを外部の音楽系サークルに依頼して作成してもらい、実際に歌ってもらうROCK YOU LIVEという企画がありました。また、天文サークルと協力して作り上げられたプラネタリウムという企画もありました。今まではここまで積極的に外部サークルと協力して企画を計画することはなかったので、まさに今回のテーマに則った緑丘祭の新しい試みですね。



では、今回の緑丘祭を成功させるにあたり、苦労したことはありますか？

やはり、外部サークルとの連携ですね。主に会議の連絡や、準備の日取りの調整など、複数の組織と連携しなければならないので、連絡の行き違いが起きました。あとは単純に、作業そのもの大変さでしょうか。遅い時には終電まで残ることもありました。

当日大変だったのは天候ですね。企画は屋外でやるものも多いですから。結局天候の都合上、日曜日の流しそうめんは屋内でやることになりました。でも、目立ったトラブルはなかったので良かったです。

今年の緑丘祭の盛り上がりは怎么样了か？

特に新企画は盛り上がっていました。ROCK YOU LIVEもそうですし、プラネタリウムも。あとは、MISS・MISTER小樽商大CONTEST2015でしょうか。こちらは芸人さんに司会をやってもらったこともあり、大きな盛り上がりを見せましたね。



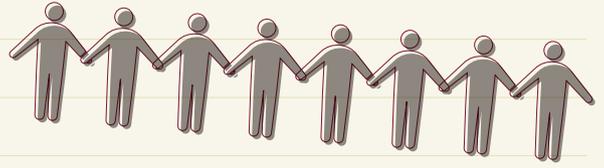
では最後に、緑丘祭の魅力について語っていただけますか？

やはり、北大等の大学祭は、敷地も広くて大規模なんですよ。でも、商大の緑丘祭は敷地も狭く、規模も小さいんです。サークルが出店するテントも、狭いスペースの中でやりくりしないといけません。しかし、その分緑丘祭は『詰まっている』のです。サークル同士の距離、学生同士の距離、そういった『距離』が物凄く近いんです。他人と他人のビジネスのような関係ではなく、親しみを込めた仲間同士で一つの物をつくり上げられる、それが緑丘祭の魅力だと思います。

緑丘祭に込められた思い、苦労、そして魅力。とてもよく伝わってきました。
谷内広夢さん、ありがとうございました！



若者合宿について



7月8日、体育会主催で若者合宿が行われました。若者合宿とは、体育会に所属する団体の1年生同士が交流を深めるために行われるものです。今回も各サークルから多くの参加者が集まり、とても実りのある企画となったようです。その様子について、体育会会長の山田敏弥さんに語っていただきました！

○今年の若者合宿のコンセプトは何ですか？

今年の若者合宿のテーマは、「**部員のモチベーションを上げるにはどうすればよいか**」考えることでした。

体育会の今年の目標は、**商大の部活を強くする事**です。若者合宿は、この目標を達成するためにはどうすればよいかを体育会に所属するサークルの皆で考えていく場と言えるでしょう。

○今年の若者合宿の様子をお聞かせください。

参加者でいくつかのグループを作り、このテーマについて話し合いをしてもらいました。そして、多くの意見を出してもらうことによって、今回のテーマである「**部員のモチベーションを上げるにはどうすればよいか**」に対する答えを探しました。最終的にグループごとに一つの解決策を導き出し、それを発表することで皆と共有する形になりました。

○最後に一言お願いします！

現時点の体育会は、部活に対して貢献できている面が少ないかもしれません。ですが、**何とかしてそれを打破したいと考えています**。商大の部活をもっと盛り上げていけるよう、**体育会は全力を尽くしたいと思っています**！

貴重なお話をお聞かせいただきました。山田敏弥さん、ありがとうございました！



後期開催予定イベント PICK UP!

後期も学内ではさまざまなイベントが行われるよ！今回は、『カラオケ大会』、『国際交流週間』、『ゼミナール合同レクリエーション』の3つを紹介するよ！



カラオケ大会

10月に行われるこのイベントは、音文連（音楽文化団体連合会）主催で毎年行われているんだ。音文連に所属する団体だけでなく、商大生なら誰でも参加できるイベントだよ。上位に入賞した人には豪華景品が、それ以外の人にも参加賞が贈呈されるみたい！歌が好き！という学生さんや、興味のある学生さんはぜひ参加してみてね！



国際交流週間

10月末に行われるこのイベントは、商大生と留学生が交流を深める場となっているんだ。内容としては、留学説明会や留学報告会・相談会、地域の方との交流もできる文化交流会（一般の方も参加可）、国際交流パーティー（一般の方も参加可）などが開催される予定だよ！商大生は誰でも参加できるので、興味がある学生さんはぜひ参加してみてね！



ゼミナール合同レクリエーション

ゼミナール協議会主催のこのイベントは、「ゼミ同士の横のつながりを作る」きっかけを提供することを目的としているんだ！予定されている内容はボウリング大会で、学科やゼミを問わない混合チームで行われるそうだよ！優秀な成績を修めたチームには豪華賞品が贈呈されるみたい！とても楽しみだね！



1、2ページの記事は、「学園だより」編集部の藤本拓也さんにご協力頂きました。ありがとうございました！

第62回 北海道地区大学体育大会

7月に第62回北海道地区大学体育大会(地区体)が行われたよ。今年は小樽市を主会場として、各地で熱い戦いが繰り広げられたんだ!本学からは、陸上競技部、硬式野球部、バレーボール部、バスケットボール部、バドミントン部、剣道部、ハンドボール部が参加して、各種目が健闘した結果、男子が総合第3位に輝くことができたよ!商大生の皆には、これからも部活・サークル活動を通して全道・全国で活躍する姿を見せてほしいな。今回は、小樽市で開催された各部活の主将に感想を述べてもらったよ。



商学部経済学科3年 **HANDBALL** 男子ハンドボール部主将 太田 健斗

今年度も小樽で、たくさんの応援の中で試合をすることができました。本当にありがとうございました。昨年度は、一回戦敗退と良い成績を出せませんでしたが、今年度は、三位という結果を出すことができたことに喜びを感じながら、満足することなく日々練習に励みたいと思います。今後も、小樽商科大学男子ハンドボール部をよろしくお願いします。

商学部商学科3年 陸上競技部主将 高橋 昂平

ATHLETICS

地区体は北海道内の国公私立大学が参加する大会で、今回は女子の参加校数が少なかったため、男子のみ計10校での開催となりました。小樽商大からは14名の選手が参加し、出場した全種目で入賞することができました。その中でも私が出場した800mでは優勝し、開催校の意地を見せることができてよかったと思います。総合結果でも本学は三位であり、この大会は陸上部の自信にもなりました。今後のモチベーションも上がり、とてもいい大会になったと感じました。



商学部経済学科3年 **BADMINTON** バドミントン部主将 寿原 裕紀

今回の地区体は、選手としてだけでなく、運営としても携わりました。自身の試合のみに集中するのではなく、本部に気を配りながらの大会でしたが、非常に学ぶことが多い大会になりました。まず、試合に臨む際のON、OFFの切り替えの重要性を学びました。次に本部の指揮を執る立場として、上に立つ者に必要なことを学びました。反省点は、同時に自身の伸びしろでもあります。この経験を次につなげられるよう、これからも努力します。

エドヒガンザクラの 植樹式が行われました

7月3日に、エドヒガンザクラの植樹式が行われました。毎年商大生も数多く出場している、おたる運河ロードレースの有志一同（代表：新山邦幸さん）から寄贈していただいたものです。

このエドヒガンザクラは、道南七飯町の桜研究家で、日本さくらの会認定の「桜守」である浅利正俊さんが、東日本大震災で被災した福島県須賀川市の神炊館神社にある、樹齢約300年のエドヒガンザクラの種を譲り受け、ご自宅でお苗を育てられたものです。このエドヒガンザクラには、浅利さんの「福島の桜を道内各地で育て、震災を忘れないという思いの輪を広げたい」という願いが込められています。このエドヒガンザクラは、3年ほどで開花する予定です。



体育館前での植樹の様子（左：和田学長 右：新山さん）

佐野力海外留学奨励金授与式について

7月6日（月）、本学学生会館多目的ホールにおいて佐野力海外留学奨励金授与式を挙行了しました。

佐野力海外留学奨励金は、本学OBである佐野力氏（元日本オラクル会長）による本学のグローバル教育の推進を目的としたご寄附により、事情科目を受講している学生の海外派遣に必要な経費の一部を支給するものです。

この度佐野力海外留学奨励金を受給したのは、平成27年度に新設された事情科目の一つである「アジア・オセアニア事情」（1年次配当）を受講している24名で、本学における事前授業を経て、夏季休業期間中にマラヤ大学（マレーシア）またはオタゴ大学（ニュージーランド）における研修に参加することとなっています。

今回は、授与式に先立ち、佐野氏より『仕事の上で成功者となるために』と題したご講演をいただき、長年の経験に基づいたアドバイスに、集まった300名以上の学生が熱心に耳を傾けていました。

授与式では、和田学長からの挨拶の後、代表学生1名に目録が手渡され、その後、佐野力氏から「海外では様々なことにチャレンジし、元気に帰ってきて欲しい」との激励の言葉が贈られました。

授与式終了後には懇談会が行われ、佐野氏と学生、また学生間で交流が深められました。



INTERVIEW with GRADUATES 卒業生にインタビュー

商大には、社会人として全国各地で活躍している卒業生が数多くいるんだ！
今回は、さまざまな業界で働く3人の卒業生にお話を伺ったよ！



<質問>①大学時代の一番の思い出は？ ②商大の魅力はどんなところ？ ③現在の職業は？（仕事内容・やりがいなど）
④在学生に向けてメッセージをお願いします！



對馬 杏衣 さん
ベンチャー企業（IT系）

- ①大学の友人と学生団体を立ち上げた事です。様々なイベントを企画しました。日本ハムファイターズ様と試合プロデュースをさせて頂いたことがとても印象的です。
- ②リアルなビジネスを体感できる事です。講義で、実際に活躍されている社長様のお話を聞く機会が多かったことや、学内ベンチャー企業があったこと等は、現在のキャリアにも大きな影響を与えています。
- ③IT系ベンチャー企業で、採用コンサルタントとして新卒採用の支援等を行っています。人の人生・キャリアの選択に携わっている事に、日々大きな使命感を感じています。
- ④何かにチャレンジする時は、常に発信することを心掛けると良いです。そうすることで、仲間や情報が集まってきます。ぜひ、商大にあるあらゆる人・モノ・情報を駆使して、何かに挑戦してみてください。



小笠原 拓哉 さん
都市銀行（メガバンク）

- ① YOSAKOIソーランサークルで振付師として120人以上のメンバーに振り付けを指導し、316チーム中15位の成績を残すことができたことが一番の思い出です。
- ②地域との繋がりが強い大学であるということです。講義やゼミ、部・サークル活動で小樽の街・人々と深く関わることができるのは、商大ならではの特徵だと思います。
- ③銀行で個人富裕層への営業推進戦略・施策の企画立案に携わっています。自分が考えた施策が全国の営業店の方々に喜んでいただけた際に喜びを感じます。
- ④「勉強・ゼミ」「部・サークル」「課外活動・アルバイト」すべてに全力を尽くしてほしいと思います。その姿勢が必ず社会で生きてきます。



山田 沙紀 さん
裁判所事務官

- ①YOSAKOIソーランサークルに所属し、子供の頃からずっと憧れていたお祭りで踊ったことです。
- ②地元の方とのつながりの深さだと思います。地元の多くの方にサークル活動を応援して頂いたり、小樽のお祭りに参加したり、とても楽しかったです。
- ③裁判所事務官として、裁判所の民事部で働いており、事件の当事者と連絡を取ったり、裁判の法廷立会の補助をしています。日々、法律の勉強が必要ですが、その分、自分の成長を感じることができる仕事です。
- ④社会人になると思わぬところで、学生時代の経験が役に立つことがあります。是非、今しかできない経験をたくさんして、充実した4年間にしてください！



お酒との適切な付き合い方を 考えましょう

今年度のアルコールパッチテストには383人の学生に参加していただきました。その結果、約60%がアルコールを分解する酵素の働きが正常なタイプ、約40%がその酵素の働きが弱いタイプであることが判明しました。また、AUDIT という自己評価式テストの結果、約3%の人に不適切な飲酒習慣がみられました。

20歳以上の成人はお酒を飲むことが許されていますが、自身の体質や体調を踏まえ、過度飲酒によって正常な判断力が失われたりしないように飲酒量をコントロールすることが大切です。また、飲み会の主催者はもちろんのこと、参加者全員で、未成年飲酒やアルコールハラスメント、飲酒運転といったことが起こらないよう、常に気を配る必要があります。

●酔いの6段階：楽しくお酒を飲めるのは「ほろ酔い期」まで

段階	血中濃度 (%)	酔いの状態
爽快期	0.02 ~ 0.04	陽気になる、判断力が少しにぶる、皮膚が赤くなる
ほろ酔い期	0.05 ~ 0.10	抑制がとれる（理性が失われる）、脈が速くなる
酩酊初期	0.11 ~ 0.15	気が大きくなる、大声でがなりたてる、立てばふらつく
酩酊期	0.16 ~ 0.30	何度も同じことをしゃべる、千鳥足になる、吐き気、嘔吐が起こる
泥酔期	0.31 ~ 0.40	まともに立てない、意識がはっきりしない、言語がめちゃくちゃになる
昏睡期	0.41 ~ 0.50	ゆり動かしても起きない、呼吸はゆっくりと深い、死亡に至る



●お酒との付き合い方のポイント

食べながら

空腹状態でたくさんのお酒を飲むと、胃腸を強く刺激し、粘膜を荒らしてしまいます。また、胃腸に何も無い状態ではアルコールが吸収されやすいため、急激に血液中のアルコール濃度が上がり、様々な障害が起こりやすくなります。



適量範囲で

アルコールの代謝能力には個人差があり、お酒に弱い人や女性は、お酒に強い人に比べ、はるかに少ない量で酔ってしまいます。また、強い人であっても、体格の差や年齢の差、飲酒をするときの体調によっても酔い具合が違ってきます。



ゆっくりと

飲む速度が速いと血液中のアルコール濃度が急に高くなり、早く酔ってしまうとともにお酒による体の障害が生じやすくなります。食べながらゆっくり飲むという習慣は健康を確保するためにとっても大切なことです。

Slowly, Slowly...



お酒に弱い人がいることを忘れない

日本人の約46%の人は、生まれつきアルコール分解酵素ALDH2型の活性が低いか欠けています。このタイプの人は、アセトアルデヒドを分解する能力が低いため、少量を飲んでもアセトアルデヒドが体内に蓄積されていくので悪酔いしやすいのです。この体質は生まれつき決まっているものであり、努力で飲めるようになることはありません。飲めない人にお酒を無理強いするのは、精神的、身体的に苦痛を与え、最悪の場合は死に至らしめることもある危険な行為です。



(出典) 公益社団法人アルコール健康医学協会ウェブサイト



教育振興基金について

現在、国の財政状況の悪化に伴い、国立大学に対して国から交付される運営費交付金は毎年のように減額され、また、少子化に伴う国公立大学間の競争はさらに激化するなど、極めて厳しい状況におかれています。地方・小規模・文系単科大学である本学は、決して優位な立場にあるとはいえません。

しかし、小樽高商創立の経緯、戦後の大学への単独昇格、近年の札幌サテライトの設置、専門職大学院ビジネススクールの設置などの歴史を振り返ると、本学は卒業生や市民そして経済界等の各方面からの御支援を得て逆境を乗り越え、飛躍のバネとしてきました。

この伝統を継承し、創立百周年を機に、本学に皆様のご寄付から成る教育振興基金を設けました。この基金の目的は、困難な大学財政の中にあっても、学生の自由闊達な活動を積極的に支援する財政基盤を確保することです。正課、課外を含めた「学び」こそが、世界にも類を見ない高齢化社会を支える基盤にほかなりません。

また、この基金に支えられた学生の自由闊達な活動、そこから得られる学び、そして学びを活かした社会での活躍が、本学が小樽の地で小規模ながら世界の中の名門大学として認知される基礎でもあります。

支援事業の内容

学生の積極的な教育活動などを支援するため次の4つの事業に活用させていただいております。

- (1) 学生の正課・課外活動への支援事業
- (2) 学生の国際交流活動への支援事業
- (3) 学生の地域貢献活動への支援事業
- (4) その他基金の目的達成に必要な事業

各年度における収入状況

平成24年度	835,000円
平成25年度	1,265,000円
平成26年度	1,175,000円
平成27年度	1,355,000円



(1) 学生の課外活動への支援事業 (ボート部)

各年度における支出状況

平成24年度	①課外活動遠征補助金	200,000円
	②TOEFL受験料補助事業	192,720円
	③商大生よ旅に出よう(企画展示他)	199,246円
平成25年度	①課外活動遠征補助金	348,000円
	②TOEFL受験料補助事業	314,300円
平成26年度	①課外活動遠征補助金	138,000円
	②TOEFL受験料補助事業	418,825円
	③教員を目指す学生応援企画(図書購入)	124,002円
	④誓いの碑整備費	291,056円

編集後記

今号では、在学生の様子をはじめ、卒業生についても記事として取り上げ、幅広い内容となりました。卒業してもなお、各地で活躍している方がたくさんいらっしゃることは、とてもうれしく思います。在学生も卒業生に負けないような有意義な大学生活を送ってください！

これからも、様々な情報を発信していきますので、よろしくお願いたします！
(学生支援課 清水)

小樽商大の新鮮な情報を毎日発信！

ブログ「商大くんがいく！」



商大若手職員と学生がタッグを組んで作っている「商大くんがいく！」ブログでは、商大生の活躍はもちろん、学内のさまざまな旬のトピックスがご覧になれます。

<http://www.otaru-uc.ac.jp/shoudai-kun/>